



## 家庭科教育のための比較生活誌データベースの構築

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2010-07-12 キーワード: 作成者: 菅宮, 健, 曾我, 佳子, 上野, 博美, 佐々木, 和美, 葛西, 歩美, 竹村, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00004838">https://doi.org/10.32150/00004838</a>

## 家庭科教育のための比較生活誌データベースの構築

菅宮 健・曾我佳子\*・上野博美\*\*・佐々木和美\*\*\*・葛西歩美\*\*\*\*・竹村直子\*\*\*\*\*

070	北海道旭川市	北海道教育大学旭川校家庭教室
*096	北海道名寄市	名寄西小学校
**098-58	北海道枝幸町	枝幸高等学校
***098-22	北海道美深町	美深高等学校
****088-03	北海道白糠町	白糠高等学校
*****564	大阪府吹田市	吹田市留守家庭児童育成室

## Construction of a Database for a Comparative Approach toward Ways of Living in Home Economics Education

Ken SUGAMIYA, Yoshiko SOGA\*, Hiromi UENO\*\*, Kazumi SASAKI\*\*\*,  
Ayumi KASAI\*\*\*\* and Naoko TAKEMURA\*\*\*\*\*

Home Economics Laboratory, Asahikawa Campus,  
Hokkaido University of Education, Asahikawa,  
Hokkaido, 070

\*Nayoro-nishi Elementary School, Nayoro, Hokkaido, 096  
\*\*Esashi High School, Esashi, Hokkaido, 098-58  
\*\*\*Bifuka High School, Bifuka, Hokkaido, 098-22  
\*\*\*\*Shiranuka High School, Shiranuka, Hokkaido, 088-03  
\*\*\*\*\*Suita Childcare Services after Leaving School, Suita, Osaka, 564

### Abstract

A database was constructed for the purpose of realizing a comparative approach toward ways of living in home economics education. A great quantity of information concerning ways of living in various cultures was collected from records of travels, records of staying in foreign countries, records of domestic daily life, etc. Each of the information was processed through classification from several points of view and through tagging descriptive keywords, and was, finally, arranged into the database. Features of this database were shown with quantities of information divided into classification. Results of tentative information retrieval also characterized the database. Some applications of the database in home economics education were discussed in the fields of family, life in relation to clothing and others. It was pointed out that home economics education utilizing this database could contribute to international understanding and computer literacy.

## I. はじめに

家庭科教育は、家庭生活を中心とした人間生活を対象としている<sup>1)</sup>。人間の生活はもともと多様なものであるから、それを理解し、認識するには比較の方法を取り入れる必要がある。G.E.スワンソンは「比較せずには考えることはできない。そしてあらゆる科学的思考や調査もすべて比較を欠くことはできない<sup>2)</sup>。」と述べている。比較は、対象の正しい認識のためのもっとも基本的な作業の一つである<sup>3)</sup>。

家庭科教材の開発において、福原<sup>4)</sup>は、生活様式の教材化という着眼点をあげ、衣食住の生活様式の比較から、新しい生活様式を創出する手がかりを学ぶことができると指摘している。しかし、衣食住に限らず、さまざまな暮らしの仕方を相互に比較することを実現した例<sup>5), 6)</sup>は少数にとどまっている。

中学校技術・家庭科に「家庭生活」領域が導入されてから、従来の家庭科教育のやり方に反省が行われている。「調理や被服製作など伝統的な家庭科教育では、教師が正しいやり方を示して、生徒にそれを学ばせることが多かった。しかし、もしも望ましい家族関係や正しい親について、教師が一方的に教え込むような教育が行われるとすればどうなるだろうか<sup>7)</sup>。」

むしろ、この世の中には多様な家族・家族関係が存在することを理解し、それらを比較検討することを通して、どれを望ましいとするのか、生徒自身が判断できるようになることが必要である。家族問題だけではなく、家庭科が対象とする人間生活のすべてにおいて、さまざまな生活のあり方の中で、どれか一つを正しいと決めて、それだけを取り上げるのではなく、生活には多様なあり方が存在するということ自体を理解し、比較という作業によって、その中から生徒自身が選択していくことが重要であろう。

このような考え方にもとづいて、家庭科教育に生活の比較の方法を取り入れる具体的なやり方をすでに提案した<sup>8)</sup>。すなわち、まず多様な生活を記述した情報を収集し、比較生活誌データベースと名付けたデータベースを構築する。このデータベースから情報検索によって得られた、いろいろな生活のあり方に関する情報と、自分たちの暮らしの実際とを比較することで、自分たちの生活をあらためて見つめ直そうとする。本報では、この方法を実現するにあたりキーとなった比較生活誌データベースについて、くわしい報告を行うこととする。

## II. 比較生活誌データベースの構築

### II-1. 生活の個別の事柄の比較

比較にあたっては、何を対象とするのかがまず問題となる。ここでは、異なる生活文化の間で生活の具体的な個別の事柄を比較するという方針を採用した。もちろん、生活の中で相互に結びついている個々の現象を、一つずつ切り離してしまわずに、異なる生活文化の全体同士を比較するという考え方も当然ありうる。しかし、「現代のごとく、生活様式が急激に変化し、生活文化の態様が目まぐるしく変わっていく状況のもとにあっては、生活のなかに通時的に流れていく独自の文化の性格を読みとることは非常に難しくなっている<sup>9)</sup>。」

このような事情から、異なる生活文化の間で、生活全体との関連に注意を払いながら、生活の個別の事柄同士を比較することにしたわけである。具体的なところから出発して、さまざまな比較を通して、全体の生活の理解を目指す。石附<sup>10)</sup>も、比較教育において、個別の現象の比較から始め、具体から本質へ迫る方法を選択している。

## Ⅱ－２．生活誌情報の収集

生活の個別の事柄に関する情報を生活誌情報と名付けることにする。それらを集めて比較する目的で作られた文献<sup>11)</sup>がすでに存在する。しかし、これだけでは比較の範囲が限定されてしまう。一方、最近では、生活の記録、旅行記、滞在記、留学記など日本人の海外生活の記録が数多く出版されている。広く生活誌情報を求めるには、これらの異文化体験録を活用することが有効である。画一化が進んだとはいえ、日本国内でも、まだ土地ごとにそれぞれ独特な暮らし方が残っている。国内における暮らしの記録も、広い意味の「異文化」の記録として、比較の材料の情報源にすることができる。

これらの異文化体験録あるいは暮らしの記録には、生活のさまざまな事柄に関する情報が、さまざまな形で、記載されている。生活の個別の事柄同士を比較するにあたって、これらの記録をそのまま利用するのは、生活誌情報を探し出すことがむずかしい。そこで、未整理のままになっている生活誌情報を広く収集し、それらを相互に容易に比較ができるように、加工を施し蓄積したものが比較生活誌データベースである。

上述の異文化体験録的な文献249点を調べて、そのうちの106点から、私たちの生活と比較すると興味があると思われる事実、人々の行動・考え方・感じ方、制度、風習、習慣などの事柄の情報1901件を収集した。海外の事柄だけではなく、日本国内の各地の事柄の情報も集めた。海外の事柄に関しては現代のものに限ったが、国内にあっては江戸時代後期にさかのぼるものまでを含めることにした。

## Ⅱ－３．生活誌情報の加工

収集した生活誌情報を、その情報が記述している事柄の内容、事柄が起こった年代、事柄に関係する人々の性別および年齢、事柄が起こった地域および国によって分類した。また、検索を容易にするため、事柄の内容に即したキーワードを付した。原典に当たることができるように、書誌的情報も付した。

内容による分類区分と、それぞれの区分に含まれる事柄の例を、文献<sup>11)</sup>を参考にして表1のように設定した。年代による分類は、20世紀前半までを18世紀以前・19世紀前半・19世紀後半・20世紀前半と区分し、20世紀後半は、10年刻みで1950年代・1960年代・1970年代・1980年代・1990年代と区分した。なお、一部の情報は、20世紀後半と区分した。性別および年齢による分類は、男性・女性・子ども・老人・男性と女性・親と子・その他に区分した。地域による分類は、世界を東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア・ヨーロッパ・旧ソ連・北米・中南米・アフリカ・オセアニア・その他の地域に区分した。国による分類は、それぞれの国で区分したが、複数の国にまたがるような事柄の場合、各地と区分した。

## Ⅱ－４．データベースの構築

データベースの構築はパーソナルコンピュータを用いておこなった。使用したソフトウェアは管理工学研究所製の桐 Ver.4である。このソフトウェアは現在のところまだMS-DOS上で動くものであるが、ウィンドウズ版がまもなく出回ることになっている。また、桐上のデータは、他の著名なデータベースソフトウェアに移植することが可能である。

このソフトウェアはリレーショナル・データベース用であり、縦横2次元の表の形式でデータを管理する。表の横行がレコードにあたり、縦列がフィールドに相当する。1件の情報が1レコードとなり、それに含まれるデータが各フィールドに分けられて1行に収められる。桐ではフィールドを項目と呼んでいるので、それに従うことにする。比較生活誌データベースのために、生活誌情報の項目に加えて、前節で述べた各分類・キーワードおよび書誌的情報に対応した項目を設定した(表2)。

文献にのっている事柄の記述を生活誌情報の項目に入力した。事柄の内容を適切に表現し、しかも検索に役立つようなキーワードを、フリーキーワードの形で付与し、キーワードの項目に入力した。表1を参考に

して事柄の内容を分類し、分類区分を内容の項目に入力した。年代・性別および年齢・地域・国名の項目には、生活誌情報の加工の節で述べたそれぞれの分類区分を入力した。情報の書誌的事項を、著者・書名・頁・発行年・発行所の各項目に入力した。

### Ⅲ. 比較生活誌データベースの機能

#### Ⅲ-1. 分類区分別に見た生活誌情報の量

比較生活誌データベースに含まれる生活誌情報は、内容・年代・性別および年齢・地域・国名の項目によって分類されている。これらの項目の分類区分ごとに情報件数を示すことで、データベースに格納されている情報の特徴を表すことができる。

表1 生活誌情報の内容による分類

分類区分	区分に含まれる事柄の例
食	日常の食事・主食・料理・食の習慣・調味料・香辛料・味覚・食に関するマナー・食事の道具・台所用品・食に間接的に関係するもの・外食・レストラン・喫茶店・食の言葉・嗜好品・飲み物（茶・紅茶・コーヒー）・おやつ・アルコール・タバコ
衣	日常着・流行・民族服・伝統服・下着・素材・洗濯・おしゃれ・装飾・美容・髪・靴・鞆・帽子・夜具・衣に間接的に関係するもの
暮らし・住居	家屋構造・衛生（トイレ・風呂・洗面）・家具・鍵・日用品・暮らしの用具・引っ越し・家に関わる風俗習慣・暮らしに関わる習慣・ペット・休日の過ごし方・余暇（趣味・娯楽・スポーツ・教養・テレビ・ショッピング・旅行・行動様式・遊び）
家族	家族・親族・親子・夫婦・主婦・性別役割・結婚・離婚・出産・育児・しつけ・老後
人間関係	社会的な男女関係・タテ社会・ヨコ社会・共同体・同性・異性・友人
社交・交際	お世辞・社交辞令・つきあいをめぐる社会的仕組み・社会的な贈り物・礼儀作法・公衆道徳・接待・手紙・電話・表情（えくぼ・八重歯）
精神文化	文化（演劇・芸術・芸人）・行事（冠婚葬祭・通過儀礼・年中行事）・宗教（宗教儀礼・宗教的観光・宗教的信念・迷信・俗信・占い・妖怪・幽霊）・死（死生観・自殺・処刑の時の態度）
心理	自己主張・自然観・世界観・価値観・勤労観・美意識・思考過程・国民性・考え方・民族性・時間に対する感覚・大衆心理・国民的英雄
社会	政治・社会制度・社会構造・情報・教育・交通・貯蓄・職業・経済（労働・生産・流通・貨幣・市場）
表現	口癖・あいさつ・非言語伝達（ジェスチャー）・音を表す言葉（擬声語・擬態語・擬音語）・呼称・姓名・象徴（色・太陽・月・花）
その他	民族・自然・風土・気候・病気・都市・農村・漁村・公園・観光名所

表3は、生活誌情報の内容の項目における分類区分別の情報件数を示したものである。衣食住や家族・精神文化・社会の情報は多いが、人間関係に関するものが少ない。ただし、ここでいう人間関係は、家族以外のものである。

年代の項目における分類区分ごとの情報件数を表4に示した。比較の対象をおもに現代の生活にしているので、20世紀後半の情報が全体で67%である。19世紀前半以前は非常に少ない。

性別および年齢の項目で、分類の区分別に情報件数を示したものが表5である。男性と女性の両方にかかわる情報が比較的多いが、他の区分はやや少ない。その他が圧倒的である。

表6には、地域ならびに国名の項目の分類区分ごとに情報件数を示した。地域にあつては全世界をカバーしているが、東アジア・東南アジア・ヨーロッパの情報が多く、南アジアのものは少ない。国では日本のものが多く、他の国では、飛び抜けて多いところはない。なお、データベース上の「国名」の項目には可能な限り国名が記載されているが、この表においては、情報件数が少ない国を、たとえば「その他の東アジア」というように一括して示した。

表2 比較生活誌データベースの項目一覧

項目分類	項目名
情報内容の項目	生活誌情報
	キーワード
	内容
	年代
	性別および年齢
	地域
書誌的項目	国名
	著者
	書名
	頁
	発行年
	発行所

表3 生活誌情報の「内容」における分類区分別件数

分類区分	情報件数	件数比率(%)
食	376	19.8
衣	208	10.9
暮らし・住居	252	13.3
家族	186	9.8
人間関係	41	2.2
社交・交際	88	4.6
精神文化	186	9.8
心理	82	4.3
社会	347	18.3
表現	68	3.6
その他	67	3.5
合計	1901	100.0

表4 生活誌情報の「年代」における分類区分別件数

年代区分	情報件数	件数比率(%)
18世紀以前	33	1.7
19世紀前半	24	1.3
19世紀後半	111	5.8
20世紀前半	194	10.2
20世紀後半	167	8.8
1950年代	6	0.3
1960年代	45	2.4
1970年代	175	9.2
1980年代	481	25.3
1990年代	400	21.0
不明	237	12.5
その他	28	1.5
合計	1901	100.0

表5 生活誌情報の「性別および年齢」における分類区分別件数

分類区分	情報件数	件数比率(%)
男性	58	3.1
女性	144	7.6
子ども	100	5.3
老人	5	0.3
男性と女性	353	18.6
親と子	36	1.9
その他	1205	63.4
合計	1901	100.0

表6 生活誌情報の「地域」・「国名」における分類区分別件数

地域	国名	地域別件数	国別件数	地域別件数比率(%)	国別件数比率(%)
東アジア		636		33.5	
	日本		426		22.4
	中国		111		5.8
	モンゴル		52		2.7
	韓国・朝鮮半島 その他の東アジア		33 14		1.7 0.7
東南アジア		416		21.9	
	マレーシア		106		5.6
	シンガポール		101		5.3
	タイ		98		5.2
	フィリピン		53		2.8
	ベトナム		37		1.9
	インドネシア その他の東南アジア		21 0		1.1 0.0
南アジア		10		0.5	
	スリランカ その他の南アジア		5 5		0.3 0.3
西アジア		60		3.2	
	イエメン		27		1.4
	サウジアラビア その他の西アジア		9 24		0.5 1.3
ヨーロッパ		358		18.8	
	イギリス		115		6.0
	スペイン		101		5.3
	オランダ		35		1.8
	ノルウェー その他のヨーロッパ		20 87		1.1 4.6
旧ソ連		39		2.1	
	ロシア その他の旧ソ連		39 0		2.1 0.0
北米		132		6.9	
	アメリカ合衆国		116		6.1
	カナダ その他の北米		16 0		0.8 0.0
中南米		61		3.2	
	メキシコ		19		1.0
	ブラジル その他の中南米		18 24		0.9 1.3
アフリカ		137		7.2	
	ジンバブエ		37		1.9
	エジプト その他のアフリカ		18 82		0.9 4.3
オセアニア		48		2.5	
	オーストラリア その他のオセアニア		36 12		1.9 0.6
その他の地域		4		0.2	
	その他の地域		4		0.2
合計		1901	1901	100.0	100.0

表3～6の分類区分件数から、全体として比較生活誌データベースは非常に多様な情報を格納しているといえよう。1901件という情報件数は、データベースが有する情報の量として、一般には決して多くない。しかし、少なすぎるということはない。むしろ、データベースとして充分認めることのできる量であろう。したがって、質的に多様で、量的にも充分なこのデータベースは、家庭科教育において生活の比較の方法を実現する上で、大きく寄与することができる。

### Ⅲ-2. 生活誌情報の検索

比較生活誌データベースでは、各項目ごとに、あるいは複数の項目にまたがって、ANDやORの検索が可能である。さまざまな方法で検索することにより得られる情報から、このデータベースの特徴を示すことが可能である。

項目「内容」で“家族”と区分され、項目「性別および年齢」で“親子”と区分されたものを検索した結果の一部が表7である。父親の権威が強いインドネシア、親子の間になれ合いがないマレーシア、家族第一主義を嫌うイギリスなど、多彩な情報が得られた。

表8は、内容の項目で“衣”，地域で“ヨーロッパ”となっているものを検索した結果の一部である。スペインの高齢者の服装，イタリア人男性の服装から，髪を染める方法，イギリスでおもに使われている繊維の種類まで，さまざまな情報が載っている。

生活誌情報の項目に“朝食”という言葉があり，地域では“アジア”という情報を示したものが表9である。タイの人々，マレーシアの中国系住民の間では，朝も外食が多い。韓国・朝鮮半島では，一日のうちで最も重要な食事が朝食であった。インドネシアでは軽い朝食をとる。国や民族によって，食事に対する考え方が非常に多様であることが分かる。

生活誌情報の項目に“礼儀”または“作法”を含んだ情報の一部を示したものが表10である。東アジアや東南アジアでは長幼の序がきびしいことが分かる。食事・喫煙の礼儀作法など，多様な生活誌情報を知ることができる。

表11に，生活誌情報の項目に“テレビ”を含み，地域の項目が“東南アジア”となっている情報群を示した。ベトナムでは，子ども達がファミコンに熱中している。タイでは，テレビが普及しても，映画がそれほど衰退していない。マレーシアやシンガポールでは，サッカーの中継に人気がある。

表7～11にあげた検索結果の例は，情報件数にして46件，全体の2.4%にすぎず，比較生活誌データベースが有する情報のほんの一部にすぎない。しかし，これらの検索結果はいずれも，多様な生活のあり方を具体的に示しており，たいへん興味深い。中学生・高校生の「常識」を揺さぶり，知的好奇心を刺激する有意義な情報であろう。このような情報に接することが，彼ら自身の生活を見直すきっかけになる。また，「日常」に埋没しかねない生活に新鮮な感覚を与え，家庭科の魅力を高めることにも役立つ。

## Ⅳ. 比較生活誌データベースの活用

### Ⅳ-1. イメージ検証授業と比較生活誌データベース

板倉<sup>12)</sup>が提唱した仮説実験授業は，理科教育における有力な授業理論の一つである。それは，科学上のもっとも基礎的・一般的な概念・法則を教えて，科学とはどのようなものかということを経験させることを目的にしている。仮説実験授業では，まずはじめに，未知の事柄に関する問題を出して，生徒に回答を予想させる。その予想にもとづいて，生徒に討議をさせる。最後にどの予想，どの仮説が正しいかを判断するために実験を行う。授業書と呼ばれる，生徒と教師がともに利用する，いわば授業についての詳しいシナリオを使

表7 家族 AND 親子による検索結果の一部

生活情報	キーワード	内容	年代	性別および年齢	地域	国名	著者	書名	頁	発行年	発行所
マレー人は、しばしば、私のような外国人に限らず、村人と全く縁のない人間と、「里親・里子」という緊密親子関係を結ぶ。	親子関係 家族 親族	家族	90年代	親子	東南アジア	マレーシア	水島	アジア読本マレーシア	200	93	河出書房新社
マレーシアでは、イスラームの影響があるいは元々そのようなのは不明だが、個人主義が徹底しており、親と子の間に日本のような関係はない。	親子関係 自立 扶養	家族	90年代	親子	東南アジア	マレーシア	水島	アジア読本マレーシア	208	93	河出書房新社
家族の成員は、親子、兄弟姉妹、とも相互に比較的平等な関係にある。父親は一家の中心とされているが権威は弱く、子供の親への服従が、儒教的管理のように一方的に強調されることはない。	家族 家族の役割 しつけ	家族	90年代	親子	東南アジア	タイ	猪俣	もっと知りたいたい	203	95	弘文堂
タイの家族は、日本の語の家族のように、基本的な教育の場であり、道場となっています。ここでいろいろなことを学びますが、最大の物はクレンギンタイ (krenal) という「察し」という「気遣い」です。周囲の人の感じを「察し」、それに対応して自分の行動を決定するわけです。つまり、「尊敬」「従順」や「謙遜」や「丁寧さ」を表わすことによつて、他人に好かれるものとなります。	しつけ 思いやり 行動様式 人間関係	家族	80年代	親子	東南アジア	タイ	猪俣	東南アジアの生活文化入門	44	89	日本生産本部
…この国では父親の権威は未だに衰えてはいません。年齢は家庭内の権威の序列を表わします。父親に逆らうことなど考えられません。子供たちは、さわめて自然に親の権威を認めています。	父子 家族関係 敬意 尊敬 反抗	家族	80年代	親子	東南アジア	インドネシア	猪俣	東南アジアの生活文化入門	171	89	日本生産本部
…母親の力もたいしたものですが、第一に、財布を握るのはたいていの家庭では母親だからです。第二に、母系社会ではないかと思われ、母親と子供の結び付きが強いからです。その母親が、子供に父親を尊敬するように教育しますので、象徴的であるとはよ、父親の権威は保たれます。	家庭経済 母子関係 家庭教育	家族	80年代	親子	東南アジア	インドネシア	猪俣	東南アジアの生活文化入門	171	89	日本生産本部
離婚時の養育権・・・アメリカの場合ほとんどが妻側。夫側は父親として、子どもが18になるまで養育費の支払い義務が。たとえ妻が富豪と再婚しても、父親としての義務は残る。	家族 親子 父母 育児 扶養	家族	80年代	親子	北米	合衆国	高橋俊江	渡るアメリカカ鬼はなし!	101	89	徳間書店
理想の親子関係・・・親子のふれあいはできるだけ控えめに、形式ばっていること。悲しくても、後悔をしても、埋められても、お腹が空いていても親に訴えない。よほどの重荷でなければ親に言わない。コミュニケーションがなくてもすむようにした家庭が理想。(徳立みや自立心を養うため)	考え方 教育 しつけ 親子 理想の子ども	家族	20後	親子	ヨーロッパ	英	グリーン	イギリス人	128	87	研究社出版
イギリス人は家族第一主義を徹す。子供は家族から恩恵を受けようとししない。ただし、家族の面影を見る義務も感じない。困ったときには国の世話になる方を選ぶ。(スコットランド、アイルランド、ウェールズの人はそうでもない。)	考え方 老後 親子の世話 恩恵 子ども	家族	20後	親子	ヨーロッパ	英	グリーン	イギリス人	133	87	研究社出版

表 8 衣 AND ヨーロッパによる検索結果の一部

生活誌情報	キーワード	内容	年代	性別および年齢	地域	国名	著者	書名	頁	発行年	発行所
……スペインの高年者の半分以上が黒い服を着ている。特に田舎がそう。これは一つには、彼らが黒い服をファッションとして好むことにもあるのだが、身内に不幸があると、その後一年間は喪に服して黒いものしか身に付けない。かつてこの期間は、三年くらいだったそうだが、自分が年を取ってくれば、喪は物議のこと、叔父さんが、従兄弟だ、はとこだ、といった人達もそろって年を取ってくる。その差が亡くなれば喪に服すから、結局年がら年中、黒い服を着ていることになる。さすがに最近はこの風習も廃れてきて、農村もだんだんが彩りに満ちてきた。	死 習儀 黒 老人 女	女	80年代	男女	ヨーロッパ	スペイン	三宅	スペインと私	81	90	三月書房
……スペインでも、洗濯物は人目につくところには干さない。みんな、中庭や人目の眩れない場所、ロープを張って干す……。といっても、ただ張っただけでは、手が届かない。そこで、両側に小さな滑車を付けて、それにロープをかけるのである。こうすればロープをたぐった時、干した洗濯物は順に向うへ送られていく……。	洗濯 干し方 家事 ロー	女	80年代	他	ヨーロッパ	スペイン	差坂	スペイン読本	210	87	福武書店
靴を脱ぐ……スウェーデンでは家庭でも保育所でも、その他いろんな所で靴を脱ぐということが広く行われている。靴をぬいだら裸足か靴下であって、スリッパというのはあまり見かけない。	廃物 文化 習儀 ならわ	女	80年代	男女	ヨーロッパ	スウェーデン	江上	スウェーデン社会事情	107	91	新風会
……ソント・ニコラス……朝の赤服に白い毛皮の襟飾りという一般的なイメージとは異なって、スペインの大僧正といういでたち、お供のピート少年……を伴って現われ、人々の歓声に迎えられる。	行事 服装 クリスマス	女	80年代	他	ヨーロッパ	オランダ	皆越	オランダ読本	48	89	彩流社
……イタリヤ人男性……月から金までの通常の勤務時には、まずもって上下おそろいの背広を着ない。女性がよくやるブラウスとスカートの組み合わせと同様、上下のコンビネーションを楽しみながら着こなしている。	服装 男性 出勤 仕事	女	90年代	男	ヨーロッパ	イタリヤ	長手	生活大図イタリヤ	12	93	JETRO
金髪にする方法……ビールを注ぎかけて黄色く、金髪に見せかけたのは昔のこと。今は各種の上質の染剤で、金や暗くない女性に、頻りに染められたいため、生え際や部分本来の髪の色だから染めた毛はすぐわかる。	染色 染色の見分け方 髪 脱色	女	70年代	他	ヨーロッパ	独	坂本明美	素顔のドイツ人	15	81	三修社
ドイツ人の髪は一般に細く、いわゆるプラチナの代わりになるようなゴワゴワの毛はない。だから髪型も髪、風や運動でバラバラになっても、唾か水をつけて髪を入れればきれいになる。油やチッカなどつける髪は少ない。	髪質 整髪剤 身体的特徴	女	70年代	他	ヨーロッパ	独	坂本明美	素顔のドイツ人	15	81	三修社
眉毛……頭髪と必ずしも同じ色ではない。頭は金髪でも眉は黒髪など。普通目に見えない程度目の毛まで一色で統一されるケースはさかたに少ない。	髪 まゆ 身体的特徴	女	70年代	他	ヨーロッパ	独	坂本明美	素顔のドイツ人	16	81	三修社
ヨーロッパ諸国の足のサイズ基準……元々、大妻の粒を使用。1324年、イギリスのエドワード2世が1センチは大妻3粒を縦に並べた長さと制定。	基本 尺度 靴 制度	女	-18	他	ヨーロッパ	各地	大塚誠	はさごころ	68	91	築地書館
イギリスの衣類の主流は化繊。ウールは高級品しかない。大人のニット製品も普通は売られているのは化繊。イタリヤ、香港、イスラエル製の化繊が多い。スカーフなどの化繊は日本製が多い。	ニット 化繊 素材 衣類	女	20後	他	ヨーロッパ	英	木村	黄昏のロンドックから	163	80	文春文庫

表9 朝食 AND アジアによる検索結果

生活誌情報	キーワード	内容	年代	性別および年齢	地域	国名	著者	書名	頁	発行年	発行所
食事は六時頃の朝食と夕方六時頃の夕食が主で、小魚や野菜のはいった汁を朝食とする。米粉で造ったうどんも食べる。食事の際には大量のモヤシや生野菜をヌオックマム(魚醤)につけてとる。酒には米焼酎とブドウ酒がある。つまみの類は、生のにんにく、とうがらしくらいで、それらをかじりながら酒を飲む。	日常生活 アルコロール料理	食	不明	他	東南アジア	ベトナム	坪井	アジア読本 ヴェトナム	81	95	河出書房新社
中国系の外食の頻度には、驚かされる。……街に無数にある屋台での朝食や昼食はもちろんだ。夕食やサパーと呼ばれる習慣的な夜食まで「毎日外食だよ」という人が少なくない。特に妊婦や夫婦だけの世帯では、そうだ。	外食 食生活 核家族 一人暮らし	食	90年代	男女	東南アジア	マレーシア	柴田	マレーシアにのびる事情	77	93	岩波書店
いるんは米の粉料理がありますが、それらは朝食のごはん代りです。近年は市販のパンにカレー煮をそえる家庭がふえたといえ、米の粉料理によせる愛着は根づよいものがあると言えました。	米粉 家庭料理 伝統食 朝食	食	90年代	他	南アジア	スリランカ	陣内	世界の食べ物こどもには	65	95	新日本出版社
ナン・レマ……マレー人の一般的な朝食を指す言葉であり、ココナツ・ミルクで炊いた白いご飯に、イカン・ピリス(イリコ)とピーナツをカリカリに油で炒めたもの、サンバル・ブラチャン、きゅうりが一、二切れ、さらには目玉焼きかゆで卵がついてくる。	食生活 主食 朝食	食	90年代	他	東南アジア	マレーシア	水島	アジア読本マレーシア	118	93	河出書房新社
サラリーマンを中核として形成された都市型の生活が普及した現在では、朝食を簡単にすませることが普通になった。しかし、伝統的な朝鮮半島の食生活においては、一日の中で、いかに重要な食事が朝食であった。朝から肉や魚のついた品数の多い食事をとらぶりと食べたのである。	食生活 朝食の内容 朝型 朝食	食	90年代	男女	東アジア	韓国・朝鮮半島	石毛	食の文化地理	36	95	朝日新聞社
朝食は、バナナやマーマンクを揚げたものに砂糖をつけて食べたり、ナン・ゴレンに目玉焼きですませたり、といった程度の軽い食事である。朝食のさいには、紅茶やコーヒーを飲む。	朝食 食生活 軽食 飲料	食	90年代	男女	東南アジア	インドネシア	石毛	食の文化地理	89	95	朝日新聞社
タイでは外食が多い。出勤前のサラリーマンや0L1が路上の一階建てで朝食をよとっている。おかげで屋や揚げパンを売る屋台など、出勤前の人々をねらった屋台は朝もか時を過ぎると姿を消す。手ごろなおかずを売る店も多いので、勤めを終えて帰る女性たちにとってはとても便利だ。	外食産業 食生活 惣菜 家事労働	食	90年代	男女	東南アジア	タイ	村井	漫遊で読む東南アジア	74	92	筑摩書房
……現在シンガポールのオフィスや家庭にどんどんクーラーが取り付けられていており、今ある冷房タクシーに加えて、近い将来冷房バスも登場するだろう。シンガポール人は、冷房のさいに自宅を朝食をとり、冷房の車に乗って、これまた冷房がはいったオフィスへ通うことになるわけである。	冷房社会 国民性 家庭構造 社会傾向 交通機関	暮らし・住居	80年代	他	東南アジア	シンガポール	小竹	シンガポールはおもしろい	38	85	筑摩書房
朝食は、朝の飲物としてのお粥と前日の残り物、饅頭、漬物が一般的。都会では料理やをうめんを食べる家もある。中国。	朝食 日常生活	食	20前	他	東アジア	中国	竹内・羅	中国生活誌	20	87	大修館書店
著者の母は、朝食にパン(食パンか小型のフランスパン)とコーヒー、半熟の卵を食べていた。パンは火袋で焼いていたが、焼き加減が難しかった。バターは三里塚の餌料牧場でできる、蒸に入れたものを使っていた。日本。東京。	朝食 洋食 パン バター 食習慣	食	20前	他	東アジア	日本	酒巻	おてんば歳時記	77	79	草思社

表10 礼儀 OR 作法による検索結果の一部

キーワード	内容	年代	性別および年齢	地域	国名	著者	書名	頁	発行年	発行所
マナー 礼儀 習儀	社交・交際	不明	他	東アジア	モンゴル	金岡	モンゴルの面白い	237	93	TRAJAL BOOK S
接待 礼儀 マナー 作法	社交・交際	不明	他	アフリカ	エジプト	伊佐	サラーム!エジプト	26	92	西田書店
教育 家庭教育 しつけ 礼儀	社会	70年代	子	オセアニア	オーストラリア	佐藤	オーストラリアからの手紙	49	85	学陽書房
食事 礼儀 接待 もてなし	食	90年代	他	東アジア	モンゴル	日本・モンゴル友好協会	モンゴル入門	93	93	三省堂
食事 マナー スプーン 使用法 ハン	食	70年代	男女	東アジア	韓国・朝鮮半島	石毛	食卓の文化誌	10	93	岩波書店
礼儀 挨拶 習儀 民族性 自己表現	人間関係	90年代	男女	東南アジア	マレーシア	柴田	マレーシアにんげん事情	93	93	岩波書店
国民意識 礼儀作法 国民性	心理	80年代	男女	東南アジア	タイ	岩城	日タイ比較文化考	12	85	泉草書房
食事作法 スプーン ナイフ 箸	食	80年代	男女	東南アジア	タイ	猪原	東南アジアの生活文化入門	57	89	日本生産性本部
タバコ 健康 礼儀 序列	食	80年代	男女	東南アジア	マレーシア	猪原	東南アジアの生活文化入門	93	89	日本生産性本部
礼儀 習わし 教育 性意識 子ども 上流社会 性別差別	人間関係	19前	子	東アジア	韓国・朝鮮半島	ダレ	朝鮮事情	213	79	平凡社

生活誌情報

伝統的作法によれば、年下のもの、あるいは外から来た客の方が先に挨拶をしなければならぬ。接待する側も、外から数人の人がやって来たから誰が一番年長かを探し、その人に最初に挨拶し返さなくてはならない。

屋敷が一日の内一番大きな食事、自宅で屋敷に招くのは最高のおもてなしである。食事の始まる二～三時間前に呼ばれて待ち、食べ終わったらさらさらと帰るのが礼儀であるらしい。

オーストラリアでは、行儀作法は家庭の問題であって、学校の責任ではない。盆に入った乳製品が小卓に置かれる。切り餅を積み重ねたように盛りだくさんロールの上に、卵焼きを二つ折りにしたような半月状のウルクムが載っている。/客人はまずウルクムをつまみ、それからアームールを口にするのが、昔からの作法とされている。

韓国へ行くとときに教わった食事作法によると、汁ばかりではなく、飯もスプーンですくって食べるのが正式である。いったんスプーンを手にしたら食べ物が終わるまで箸に置くことをしない。ハンを使うときには、スプーンは飯碗か、汁碗に立てかけておく。ハンは用途はおかずをつまむことにある。ハンを休めるときには、膳の上に横たえておく。

地位や身分の高い人間に対する礼儀作法は、マレーシアでは、重要だ。……私の母を紹介したときの、友人たちの教養ぶり……突然、僕も礼儀正しい淑女になって、母に緊張と頭を下げた挨拶しているのだ。

目上の人や年長の人間に対する礼儀を守ることが、タイ人はとても大切だと考えている。「何も規則はない」とはいわぬものの、少しはくはくはありません。ふつうは、都会では、左手に持ったフォークで食べ物を右手のスプーンに入れ、それを口に入れるという東南アジアの多くの国の作法です。スプーンはナイフ代わりになり、とても便利ですが、もともと、田舎に行く、右手の二本指だけで足りているようです。お箸は、麺類や春巻など中国式の食べ物を食べるのに限ります。もともと、中国系の家庭では、当然のことながら、お箸を使っています。

女性は喫煙しません。男性の喫煙者も年長の前では吸いません。ですから、煙草を吸いたければ、年長者や同席者にまず断わることが礼儀です。

上流階級社会では八歳もしくは十歳から男女は席を同じくしないことが礼儀とされている。



うことも、この授業の特徴の一つである。

板倉<sup>13)</sup>は、のちに仮説実験授業の方法を、理科から社会科など他の教科の授業に発展させて、イメージ検証授業というものを提案している。これは、たとえば社会に関する基礎的な概念を、言葉による定義としてではなく、生徒に、イメージとして頭に描かせるためのものである。板倉は「イメージというものは人が誰かに直接伝えることのできないものだ。あることに関係するいろいろな事実を知って、人はそれを一つのイメージにまとめあげる」、したがって、「イメージそのものは与えることができないにしても、そのイメージを構成するもととなる一連の事実は教え与えることができる。」としている。さらに、板倉は、仮説実験授業というものはイメージ検証授業の一種で、その授業でとりあげる概念・イメージが科学的に明確に定義しうるとき、イメージ検証授業は仮説実験授業になりうる。つまり、イメージ検証授業の方が仮説実験授業より広い概念で、後者は前者のうち特に理論的基礎の明確なものであると述べている。

比較生活誌データベースは、人々の日常の暮らしにかかわる大量の情報を格納している。生活に関するさまざまなイメージを作り上げるのに必要な、一連の事実についての情報を、そこから探し出すことができる。したがって、生活にかかわるテーマでイメージ検証授業を行うとしたとき、比較生活誌データベースは、このタイプの授業にまことにふさわしい、情報の材料源として有効に活用できる。特に、データベースの情報検索は、仮説実験授業において実験が果たしていた役割を担うことができよう。人々の生活に関するさまざまな概念の教育にあたっては、比較生活誌データベースはうってつけの教育資源である。

#### IV-2. 家族に関する教育

「家庭科の中で、家庭を構成している人間の問題についての関心が高まり、家族についての学習が増える傾向にあることは大いに歓迎すべきことである<sup>7)</sup>。」中学校の教師達も、中学校技術・家庭科の家庭生活領域に家庭経営や家族関係などを導入することに積極的である<sup>14)</sup>。しかし実際には、家族の問題を取り上げるはずの家庭生活領域の教育内容の中で、家庭の仕事、すなわち家事技術の占める割合が非常に高い<sup>15)</sup>。家庭生活領域が新設された意義を考えれば、その教育内容として、家族の問題を中心的に扱う必要がある。従来の技術中心のカリキュラムから脱皮して、中学生が自分自身の生活と、他のいろいろな生活とを比較し、生活や家族を認識できるようにすることが重要である<sup>16)</sup>。パジャマや行事食を上手に作れるかどうかよりも、夫婦や親子などの家族の人間関係のあり方の方がめいめいの生活に大きな影響を与え、将来の生活を左右する<sup>7)</sup>。高校生にあっても、家庭生活に関する学習を通して、自分の、地域の、地球的規模での人間の生活に関心を持ち自分の生き方とのかかわりで考えることが望まれている<sup>17)</sup>。

このように家族の教育に対しては大きな期待が寄せられている。その実際の教育方法として、ケーススタディ・劇化・ゲームなどが提唱されている<sup>18)</sup>。比較生活誌データベースも、家族の教育に活用可能であり、利用方法の具体化を今後の課題としていた<sup>8)</sup>。

そこで、家族についてのイメージを作り上げることを目的として、イメージ検証型の授業書「家族」および「家族とは何か」の作成を試みた。授業書「家族」では、最近の霊長類の研究のデータなどから、人類に家族が出現したプロセスを扱うことで、家族のイメージ形成を目指し、さらに、比較生活誌データベースによる情報検索をまじえて、現在の家族が抱える諸問題を取り扱っている<sup>19)</sup>。授業書「家族とは何か」においては、同様に比較生活誌データベースを活用しながら、結婚・離婚・性別役割などの観点から、家族がさまざまなあり方を示すこと、すなわち、家族の多様性に取り組んでいる<sup>20)</sup>。

#### IV-3. 衣生活についての教育

現行の指導要領は、中学校技術・家庭科の被服領域の目標の項で、日常着や手芸品の製作を通して、生活

と被服との関係について理解させ・・・，と述べている。すなわち，目標の一つは，「生活と被服との関係」について理解させることである。内容の項にも，(1)簡単な被服の製作，(2)手芸に続いて，(3)生活と被服との関係について考えさせる，という記述がある。第1と第2の製作と手芸については，指導すべき事項がくわしく述べられている。ところが，第3の生活と被服との関係については，それが具体的にどのような事柄を指すのか，また，それをどのように指導したらよいのか，何も触れられていない。

被服教育については，製作をどう扱うべきか，さまざまな角度から論議が行われて来た。しかし，実際の教育現場では製作の授業が多い。生活と被服との関係に相当するものとしては，たとえば，着装についての授業が行われているようである<sup>21)</sup>。作る暮らしから選ぶ暮らしへ，というように被服の購入時の選択の問題を取り上げることも目につく。このように，生活と被服との関係にあたるものがないわけではないが，概して，個人の生活の範囲にとどまっていることが多いようである。

生活と被服の関係をどのようにとらえるか，さまざまな立場があり得よう。しかしこの関係を個人の生活に限定せず，もっと広くとらえることがあってよい。日常生活，普段の生活は，「日常」・「普段」の言葉から「ありきたり」ということがイメージされるように，そのままでは知的好奇心を刺激するものではない。毎日の暮らしを対象としてもものを考えるには，何らかの“刺激”が必要である。

たとえば，木綿の採用が日本人の感性を著しく細やかにした，という柳田<sup>22)</sup>の指摘などは，日常普段の衣生活に，新鮮な感覚を覚えさせるのではなからうか。また，現在では，私たちの衣生活は，被服を購入するところから始まり，被服の生産・流通は目に見えないものになってしまっている。しかし，商品としての被服というものには，生産や流通に携わる人々の知恵と汗，あえて言うならば彼らの生活が込められている。これらの人々の生活が，被服という商品を媒介として，消費者の衣生活とつながっている。現代社会における人と人のつながりの多くはこういう形であろう。消費者は孤立して存在しているのではない。このような人と人とのつながりが，私たち消費者の衣生活の基礎構造として存在している。生産・流通で働く人々の様子<sup>23)</sup>をリアルに伝えることができれば，それはまた，生活と被服との関係に新しい目を向け，人間の世界の理解につながることになるだろう。

このような観点から，比較生活誌データベースを活用して，広くとらえた生活と被服との関係そのものを教育内容とすることが可能であると考えられる。この分野でも，家族の教育で具体化したのと同様に，実験を比較生活誌データベースの情報検索で置き換えた，イメージ検証型の授業を作り出すことができよう。

#### IV-4. その他の家庭科教育

日本における米の炊き方は炊き干し法と呼ばれ，私たちはこの方法に何の不思議も感じない。ところが炊き干し法は米を食べる世界では少数派であって，日本以外では，米の煮汁を途中で絞り流す，湯取り法が主流である<sup>24)</sup>。

日本でパンといえば，西欧型の食パンに代表されるものが主である。同じ小麦のパンであるのに，インドのナンに代表されるようなパンは，最近に至るまでほとんど普及しなかった。小麦の食べ方に，食パンとは異なる別の選択肢があったのに，私たちは従来，その選択肢をほとんど採用してこなかった。

このように食生活においても，毎日の私たちの暮らし方の見直しを迫る，多様なあり方が存在する。調理や栄養にとどまらない，食生活に対する異なるアプローチがあり得る。比較生活誌データベースは，このアプローチに活用できる。家庭科教育のすべての領域において，同様のことが考えられるはずである。家庭科を，モノの学習ではなく，ヒトの学習，人々の生活についての学習へと着眼点を変えるならば，いっそうその可能性は高くなるだろう。

#### IV-5. 教育の現代的課題

現代の教育における重要な課題として、国際理解と情報活用が注目を浴びている。国際理解といえば外国語、というように、外国語の学習が国際理解の中心と思われる。しかし、「国際間の文化交流においては、生活文化の相互理解こそ重要な課題である。・・・現代人の日常生活なら、互いによくわかり合えると思いきいこんでしまう。しかし実際はそうではない。そのためにたえず国際間でのコミュニケーションギャップが生じている<sup>25)</sup>。」比較生活誌データベースは、異なる生活文化の日常生活の情報を格納している。これを活用することで、家庭科も国際理解教育を担うことができる。

比較生活誌データベースの利用は、そのまま情報活用である。中学生や高校生になれば、若干の訓練によって、このデータベースを利用して自分で検索を行うことができる。

また最近ではインターネットを教育に利用することに、大きな関心が寄せられている。インターネットでは世界中の各地の情報を比較的容易に集めることが可能である。比較生活誌データベースの情報検索で得られたある事柄の情報によって、まず好奇心を刺激され、インターネットでさらにその事柄に関する情報について深く調べる、というように、比較生活誌データベースとインターネットを相補うものとして利用し、生活を比較して考える教育が可能となろう。

#### V. まとめ

生活は多様なものであるから、異なる文化の生活と比較することではじめて、自分の生活を理解できるようになる。家庭科教育において、このアプローチ、生活の比較の方法を具体化するために、海外・国内の旅日記・滞在記・暮らしの記録等から、さまざまな生活文化における生活誌情報、1901件を収集した。これらの情報にフリーキーワードを付け、内容・年代・性別および年齢・地域・国名の項目によって分類して、比較生活誌データベースと名付けたデータベースを構築した。

これらの分類項目の区分ごとの情報件数によって、データベースの特徴を示した。また、数種類の検索例から、このデータベースが持つ豊富な情報の特徴をあわせて示した。

生活に関するイメージを作り上げる教育の具体的な方法として、イメージ検証授業について論じ、比較生活誌データベースがこれにふさわしい教育資源であることを指摘した。さらに、家族に関する教育において、授業書を作成した具体例にふれ、衣生活をはじめ、家庭科教育のすべての領域で生活の比較の方法が可能であることを示した。また、比較生活誌データベースを活用した教育によって、家庭科が国際理解教育を担えること、情報活用の進展に寄与できることを述べた。

#### 引用文献

- 1) 日本家庭科教育学会, 家庭科教育の構想研究, 日本家庭科教育学会, 8 (1977)
- 2) N. J. スメルサー, 山中 弘訳, 社会科学における比較の方法, 玉川大学出版部, 14 (1996)
- 3) 西川長夫, 新しい文化モデルの模索 — プロローグ, 竹内 実・西川長夫編, 比較文化キーワード①, サイマル出版会, 7-18 (1994)
- 4) 福原美江, 家庭科の理論と授業研究, 光生館, 183 (1990)
- 5) 家庭科の授業を創る会, 異文化の生活教材を導入する試み (1), 家庭科教育, 61(3), 40-47 (1987)
- 6) 家庭科の授業を創る会, 異文化の生活教材を導入する試み (2), 家庭科教育, 61(5), 46-52 (1987)
- 7) 牧野カツコ, 家庭科教育と家族の教育, 家庭科教育, 66(14), 5-13 (1992)
- 8) 菅宮 健・中村公子, 家庭科教育における生活の比較の方法, 日本家庭科教育学会誌, 40(3), (1997)印刷中

- 9) 松平 誠, 比較文化論序説 — 異文化の理解 —, 山口 修・齋藤和枝編, 比較文化論, 世界思想社, 2-25 (1995)
- 10) 石附 実, 教育の比較文化誌, 玉川大学出版部, 11 (1995)
- 11) 金山宣夫, 比較生活文化事典①~⑤, 大修館 (1983)
- 12) 板倉聖宣, 仮説実験授業, 仮説社, 25 (1984)
- 13) 板倉聖宣, イメージ検証授業の提唱, 仮説実験授業研究会編, 授業科学研究, ほるぷ出版, 12, 5-37 (1984)
- 14) 日本家庭科教育学会九州地区会, 家庭生活領域の研究と実践 — 家庭科教師の悩みと課題 —, 家政教育社, 39 (1993)
- 15) 増渕哲子, 家庭科の学習方法としての「かたち」 — 「実践的能力」の形成をめぐる考察 —, 北海道教育大学教科教育学研究図書編集委員会編, 子どもとかたち — いま問われている教科教育における「型」と「形」 —, 東京書籍, 64-74 (1996)
- 16) 林 隆子, 中学校における「家庭生活」領域の指導について, 家庭科教育, 66(6), 14-18 (1992)
- 17) 櫻井純子・河野公子, 新しい高等学校家庭科の実践と課題, 家庭科教育, 68(6), 6-16 (1994)
- 18) 中間美砂子, 「家族・家庭生活」教育の理論, 日本家庭科教育学会中国地区会, 小・中・高等学校で「家族・家庭生活」をどう教えるか — 家族関係教育・消費者教育の視点から —, 家政教育社, 7-20 (1992)
- 19) 鎌田歩美, 授業書試案「家族」の作成 — 中学校「家庭生活」領域における比較生活誌データベースの構築及び活用に関する研究 —, 北海道教育大学旭川校平成7年度学士論文, (1996)
- 20) 竹村直子, 授業書試案「家族とは何か」の作成 — 比較生活誌データベースの構築および中学校「家庭生活」領域における「家族」についての授業での活用に関する研究 —, 北海道教育大学旭川校平成8年度学士論文, (1997)
- 21) 倉盛三知代, 「衣生活」の学習指導にみる教科の独自性とその必要性, 日本教育大学協会全国家庭科部門中学校家庭科の再編に関する特別委員会, 家庭科の「独自性」と「必要性」, 12-13 (1996)
- 22) 柳田国男, 木綿以前の事, 角川書店, 12 (1975)
- 23) 朝日新聞経済部, 一千万人の繊維, 朝日ソノラマ (1977)
- 24) 中尾佐助, 料理の起源, 日本放送出版協会, 10 (1979)
- 25) 小塩 節, ドイツの都市と生活文化, 講談社, 306 (1996)